

令和2年度 長期留学報告

所属・職名 政経学部・教授

氏名 岡崎哲郎

留学先 アメリカ合衆国

University of California, Riverside (UCR)

School of Public Policy

目的 「政策決定と社会システム」を主題としての研究活動

期間 2020年3月28日～2020年7月31日

※2年以内に本学機関紙、もしくは学会誌等に研究成果を発表する。

UNIVERSITY OF CALIFORNIA
RIVERSIDE

令和2年度 長期留学報告

政経学部 岡崎哲郎

留学国：アメリカ合衆国

- 誰もが知る、良くも悪くも世界を主導する国の一つ。
- 誰もが、良い面と悪い面を含めて認識すべき、世界で最も民族的に多様かつ多文化な国の一つ。
- 誰もが認める、良い意味でも悪い意味でも経済学研究の世界的中心地。
 - 一部のの人に不評のアルフレッド・ノーベル記念経済学スウェーデン国立銀行賞（俗に言うノーベル経済学賞）受賞者の大多数がアメリカ合衆国国籍者（帰化者を含む）もしくはアメリカ合衆国在住の研究者。

留学都市：カリフォルニア州リバーサイド

- アメリカ合衆国カリフォルニア州南部内陸に位置。
- リバーサイド郡の郡庁所在地。
- インランド・エンパイア地域及びリバーサイド郡で最も知られた町。
- カリフォルニア州における柑橘類栽培発祥地。
 - カリフォルニア大学リバーサイド校は、カリフォルニア大学の柑橘類研究所として設立。

所属大学: University of California, Riverside (UCR)

- UCR (カリフォルニア大学リバーサイド校) はカリフォルニア大学システムを構成する10校のうちの1つ。
- Center for World University Ranking 2019-2020では、世界中の大学のトップ1%の大学の1つ。
- 2019年秋学期登録学生は25,548人。
 - 内、学部生が22,055人で、大学院生が3,493人。
- 80以上の学部専攻; 55の修士課程プログラム; 42の博士課程プログラム。

所属機関: School of Public Policy

- 2012年設立。
- カリフォルニア大学システムにおける4つの公共政策大学院 (public policy schools) の1つ。
- カリフォルニア大学システムにおいて唯一、学部での公共政策プログラムを提供。
- 標語: “Solutions for the Region, Solutions for the World.”

担当教員: Anil B. Deolalikar 教授

- School of Public Policy の創設大学院長
 - *Journal of Asian and African Studies* と *Journal of Developing Societies* の共同編集長
 - The American Association for the Advancement of Science 会員
 - 世界銀行・アジア開発銀行などの元アドバイザー
 - etc.
- 途上国の教育・貧困などについて4冊の著作と75の研究論文を発表。

研究主題：政策決定と社会システム (1)

- 進行中の研究
 - 選挙での報道と政策決定の関係
 - 報道機関による情報と選挙で選ばれる政策の関係
 - 憲法規定と財政の関係
 - 政府内エリート間の交渉とその枠組みの関係
 - 生産性と公共財供給の関係
 - 生産性の違いが公共財の自発的貢献に与える影響
 - 政府間関係と政策決定の関係
 - 政府間のスピルオーバー効果存在の下での政策決定

研究主題：政策決定と社会システム (2)

- 在外研究中の研究の方向性
 - 政治経済システムと政策決定についての研究の追求。
 - 集団的な意思決定システムに、集団的意思決定結果は依存。
 - 各国の集団的な意思決定システムは、それぞれの国の政治経済システムを反映。
 - 集団的意思決定システムとしての政治経済システムの理解は、経済学だけでなく、政治学、社会学、歴史学等の知識を必要とする。
 - 多様な研究者との意見交換は有効。
 - ⇒ 今回の在外研究の主要目的。

UCRと研究計画

- School of Public Policy
 - 受け入れ教員であるDeolalikar教授が所長。
 - ⇒ 人間関係構築に大きな効果が期待できる。
 - 多様な研究テーマの研究者が所属。
 - ⇒ 背景の異なる研究者と交流が可能。
- 大統領選挙
 - 実際の大統領選挙を直接観察できることのメリットは大きい。

University of Californiaとの交流 (1)

- Deolalikar教授とは、渡米前からE-mail, Skypeで連絡を取り合う。
 - 渡米後も、基本的にはE-mailでの連絡となる。
- Julie Berry Cullen教授 (University of California, San Diego)からは渡米前に研究計画についてのコメントを受け取る。
- Amihai Glazer教授 (University of California, Irvine)にも渡米前に連絡。
 - University of California, San DiegoとUniversity of California, Irvineはどちらもカリフォルニア大学システムを構成する大学。

University of Californiaとの交流 (2)

- Deng (Tom) Zhifeng教授 (Donghua University) が在外研究としてUCR滞在中で、メールで情報交換し、渡米後も交流。
 - Zhifeng教授は、私の渡米前に、コロナ問題の深刻化を考慮して在外研究の中断を決断される。
 - 在外研究中断決断後に母国への帰国便を予約しても、その後にその便がキャンセルされるという事態が続き、娘さんと3か月ほどの間リバーサイドに足止めに。
 - Zhifeng教授は、自動車購入・売却、アパート契約などで中国人ネットワーク利用されていた。

University of Californiaとの交流 (3)

- 西川邦夫准教授 (茨城大学) はUCRでの在外研究経験があり、情報交換。
 - 西川先生は政経学部の高橋大輔先生のご友人。
- 政経学部の浅野正彦先生はBen Bishin教授 (UCR) を紹介してくれる。
 - 残念ながら、渡米後にUCRキャンパスが閉鎖中であったために、今回は連絡を取る余裕がなかった。
 - 研究熱心な同僚が多く存在する組織に所属する利点を実感。

滞在中の経験(1)

- 3月初旬に、The Annual Meetings of Public Choice Societyでの論文報告のために、約2週間滞在の予定でカリフォルニア州へ。
- ロスアンゼルス近郊で乗用車購入後にリバーサイドへ。自動車保険契約は、メールで契約内容が送られてきて、スマートフォン画面上でサインをするというネット契約。
- ディーラーが教えてくれた店舗で、プリペイドのスマートフォン用SIMを購入。日本で利用のスマートフォンにそのSIMを入れ替えて利用。
- スマートフォンは、カー・ナビゲーションにもなるので、知らない土地での運転に不可欠。カー・ナビゲーションを購入する人は少数とのこと。

滞在中の経験(2)

- 3月初旬のリバーサイド滞在中は、大学の国際課でJビザでの滞在の手続きを行い、Deolalikar教授と研究室で意見交換をした後、School of Public Policy事務所で大学でのアカウント取得の手続き等を開始して、私が利用することとなる研究室の鍵を受け取る。翌日、多人数の対面での会合が禁止され、国際課での訪問研究員用のガイダンスをZoomで行うという連絡を受ける。
- コロナ問題が生じてからネット会議の方策を模索するのではなく、その前から当たり前前にネット会議を実施していた模様。私は、その時点でZoomという言葉を知らず、当日に国際課受付の(多分アルバイトの)女子学生に尋ね説明を受ける。

滞在中の経験(3)

- リバーサイド滞在中に、コロナ問題がアメリカ合衆国内で一気に深刻化する。
- 最初にホテルにチェックインした時は、明らかに東アジア出身と見られる自分の外見を利用したコロナ絡みのジョークを言えたが、そのような雰囲気は一気に消えていく。
- コロナ問題のためにThe Annual Meetings of Public Choice Society中止の連絡を受ける。
- リバーサイド滞在を延長。アパートメント探し等をした後に、一度帰国。

滞在中の経験(4)

- 3月中旬に帰国後、改めて3月末に今回の長期留学のためカリフォルニア州へ。コロナ問題の中、航空会社は柔軟な対応をしてくれて、予約してあった家族全員の航空券の内、自分の分以外はキャンセルし、まずは一人で渡米。状況を見て家族を呼ぶことを予定。
- 3月初旬プリペイドSIMを購入したお店に日本からメールをして、SIM購入の契約。情報収集・契約等でスマートフォンは初日から利用度大。
- 3月初旬に購入し、中旬の帰国前に預けておいた乗用車をディーラーから受け取り、リバーサイドへ。

滞在中の経験(5)

- Stay at Home Orderの下、スーパーマーケットや銀行、ドライブスルー対応の飲食店などを除いて経済活動が停止している中、カリフォルニア大学リバーサイド校のキャンパスも閉鎖中。
- 不動産オフィスも、対面サービス提供が禁じられており、ネットを通じて登録・物件検索・問い合わせ・契約という手順に。
- ネットで、現住所・収入・自家用車その他詳細な個人情報を提供。その後、物件見学の予約を入れ、契約意思を伝えると、契約書がメールで送られてくる。パソコン上の契約書画面で電子サインして返送。メールの指示に従って、直接担当者に会うことなく部屋に入る。

滞在中の経験(6)

- 3月初旬、国際課職員に、次に入国する際には、以前(2009年)のアメリカ合衆国滞在時に取得したソーシャル・セキュリティ・ナンバー(S.S.N)のカードを持参してくるようにとアドバイスを受けた。S.S.N.を持っていることで、ネットでの契約のやり取りが多少はスムーズに進んだが、それがなかったら、ネットでの契約ややり取りはほとんど先に進まなかった可能性も。(2009年は、政府の事務所を大学オフィスで教えてもらって申請に行き、それから数日後にカードを受けとったはずなので、入手までに日数を要したと記憶。)
- 銀行口座は、UCRからの招聘状(invitation letter)を見せることで、住所確定前に作ることができた。

滞在中の経験(7)

- 3月初旬滞在時に予定し4月に契約したアパートメントは、評価の高い小学校の学区にある家族用で家賃が高く、一度入居した後ですぐに解約。家族が合流するまでの期間を一人で住むためのアパートメントを探し始めるが難航。物件毎に不動産事務所が異なり、事務所によっては、ネットでの情報提供のフォーマットに情報を入力できず(日本の電話番号や日本の免許証情報が入力できない等)。
- アパートメントがどの学校の学区に所属するかで、部屋代がかなり変わる。時々、シェア・ハウスなどで好条件の物件が稀に出るが、連絡を取ったときにはすでに契約済みとなっていたことも。

滞在中の経験(8)

- 中国人研究者は、中国人同士のSNSでシェア・ハウスなどの情報を共有しており、その情報の一部を教えてもらって連絡を取るが、なかなか条件に合わず。日本人は少なく、日本人向け情報を集めることができない。
- 大学が、特例として学生寮を提供してくれたおかげで、学生寮に入る。
- UCRの学生寮は、複数学生でのルーム・シェアが基本で、単身での部屋利用は格別に安いわけではないが、光熱費などが含まれているだけでなく、いつ家族でのアパート生活が始まるか分からない中で契約期間を事前に固定しなくてもよいという対応をしてくれて、仮の宿泊先としては良い選択肢となった。(平時にこのような契約ができるかは不明。)

滞在中の経験(9)

- 2009年滞在時にも経験したが、アメリカの建物は火災報知器が敏感で一度アラームがなると、建物から全員が外に出なくてはいけない。3月初旬に国際課のオフィスを初訪問した時も、アラームが鳴り響く中、全員が建物の外で待機をされていて、2009年滞在時の経験を思い出した。
- 学生寮の火災報知器は極めて敏感で、4か月弱の滞在中に3度アラームが(ガイダンスで注意を受けたにもかかわらず、1度は私が原因)。
- アメリカの大学を卒業するのは大変と言われるが、6月頃には、学生寮やスーパーマーケットの駐車場に、‘You made it’ ‘Congratulations’などと窓ガラスにペイントされた車が。見事卒業した学生の車だろう。

滞在中の経験(10)

- Stay at Home Orderの下、スーパーマーケットへの買い物以外は、殆ど部屋で過ごすことに。
- 5月に入った頃から、Walmartはマスクなしでは入店できなくなり、急速に街中でマスク利用が一般化する。Walmartの対応は7月頃に緩和される。
- 全米でのBLM (Black Lives Matter) デモの広がりの中で、リバーサイドでも6月に入ってデモが予定され、緊急で‘curfew’ (夜間外出禁止令) の連絡を受けることも。
- 滞在中、レストランなどの規制が一度緩められたが、その後、病床数の余裕がなくなりつつあるとの理由から、再び厳密な規制が出される。

滞在中の経験(11)

- 知らない人との挨拶、アイ・コンタクト、笑顔の交換は日常茶飯事。
- 街に人が少ないにもかかわらず、買い物中や歩行中に何度か話しかけられる。一度は、年配のヒスパニック系男性と「大学教育」について話しながら1ブロックを歩くことに。顔にも入れ墨をしている白人の老人に話しかけられた時は、何を言っているか理解できず相手に悪いことをした。私の眼鏡について、黒人の若い女性とレジで会話になったこともあるけど、‘Your glasses ,,,’といきなり話しかけてきて、コーヒー受け取りの時になぜ glasses という単語が？と最初は戸惑った。歩道を歩いていると、若い白人男性の運転するスポーツカーが寄ってきて‘Ride?’と話しかけてきた時には一瞬好奇心が沸き上がったが、リスク回避で断る。などなど。

長期留学の中断

- カリフォルニア大学リバーサイド校は、秋の新学期も原則として、キャンパスを閉鎖し、講義も遠隔という方針を発表。
- 小学校が再開されたら子供たちを含む家族を呼ぶ予定で情報を集めていたが、教育委員会が、秋の新学期を、学校をハブ施設として利用しながらも授業は遠隔で行う方針を選択する可能性が高まり、中断を検討。
- 学長・政経学部長・経済学研究科長に相談の連絡を取り、中断を決定して、8月1日に帰国。
- 帰国前にDeolalikar教授と対面で意見交換し、コロナ問題が落ち着いた後の再会を約束。

留学の成果

- 「滞在中の経験」にあるように、殆ど部屋を出ることができず、大学の図書館などの施設利用や研究者との交流などが全くできなかった。
- 遠隔授業実施一般化を意識しての、帰国後の講義用の資料作りが作業としては最も進捗する(パワーポイント資料計3,000枚あまりを作成)。
- この数年間の研究を論文としてまとめる作業を始め、まずその一部として論文「報道機関による情報伝達と中位投票者定理」を作成。現在(2020年10月)学会専門誌への投稿を準備している。
- 生産性が異なる2主体が、経済活動を行い、そこでの成果の一部を公共財のために自発的貢献する、という問題の研究を始める。

研究成果内容

- 「報道機関による情報伝達と中位投票者定理」
 - 候補者の誘意性が非対称情報
 - 既存研究
 - ⇒ 報道機関による情報伝達：選挙結果に影響
 - ⇒ 報道機関のイデオロギー：影響力大
 - ⇒ 中位投票者定理不成立
 - 報道機関の多様性の下で中位投票者定理が成立することを証明。
 - 報道機関の多様性の下でも、政党が政策に関する選好を持つと、中位投票者定理が成立しないことも証明。

進行中の研究の内容 (1)

- 生産性の違いの下での、政府間の公共財供給の決定について。
 - 政府内政策決定
 - 中位投票者の選好が優先され、所得の少ない主体の公共財への需要が政策として選ばれる。
 - 社会構造によって投票者の分布が変化する。
 - 政府間政策決定
 - 生産性の大きな地域ほど結果的に多大な公共財供給を行う。
 - 生産性の小さな地域ほどフリー・ライドする。
 - ⇒ 政府間のゲームの構造が現れる。

進行中の研究の内容 (2)

- ⇒ 政府内の政策決定と政府間の相互依存関係を研究。
- ⇒ 一国内での地方政府間の関係と、そのような地方政府と中央政府の関係が、社会的厚生に与える影響の解明につながる。
- ⇒ 世界政府が存在しない下での国際的公共財の供給と政治システムの関係の解明につながる。

今後の進展

- 今回の留学の研究主題:「政策決定と社会システム」
- 本来の研究計画では、地域間の社会システムの相違に焦点を当て、各地域の政策決定が一種の公共財的な意味を持つ環境で、公共の意思決定システムがどのような影響を持つかを研究する予定であった。
- 近い将来に、本来予定されていた今回の長期留学の残された期間として、再びカリフォルニア州リバーサイド校へ赴くことができれば、Deolalikar教授だけでなく、研究所に所属する様々な分野の研究者と意見交流をすることができ、より広がりを持った具体的な研究対象を見つけ出せると思うし、今取り掛かっている研究は、その際の出発点となり得ると考える。

最後に

- 今回の留学は、コロナ問題の深刻化の時期と重なるという、全く予期できないものとなり、結果的には4か月の滞在のみで帰国することとなった。
- Deolalikar教授とも「今まで誰も経験していない事態」と会話したし、Deolalikar教授は、平時をはるかに上回る時間を会議に振り向けることになっていると仰っていた。
- 拓殖大学でも、教員・職員、そして学生の皆さんが予想外の経験の連続となっていたと思う。
- 社会が大きく変わるかもしれない状況下、短い期間でのわずかな成果であっても、今後の研究と教育に活かせればと考えている。